秋葉原駅前に設置された総合防災案内板

災害時の避難所、一目で

防災案内板 秋葉原駅前2か所に

千代田区

9月1日の防災の日を前に、千代田区は31日、秋葉原駅前の2か所に総合防災案内板を初めて設置した。区は老朽化した住居表示案内板などを更新する際、代わりに総合防災案内板を立てることにしており、今後、区内全域で設置を進めることにしている。

総合防災案内板は、高さ2㍍、幅1・5㍍。従来の住居表示案内板と同じく周辺の地図が掲示されているが、区の施設や交番、トイレなどのほか、災害時に役立つ様々な施設が示されている。

最寄りの避難所や、食料や毛布などを備蓄している区の災害用倉庫、災害時に使用できる井戸、道路が寸断された場合に救援の船が着岸できる川辺などの位置が示されており、大災害発生時にどこへ避難すればいいか一目でわかるようになっている。

区は今年度末までに、計190基の総合防災案内板を設置する計画。公費負担を抑えるため、案内板の設置と維持管理はNPOに委託し、NPOが案内板の一角に広告スペースを設け、広告費を設置と維持管理の費用に充てる。

190基の設置と今後20年間の維持管理費は計4億7300万円と試算されているが、区区民総務課は「広告費の活用で区費負担を3600万円に圧縮できる」としている。

読売新聞
平成17年9月1日掲載